

平成 29 年度地域福祉チャレンジ活動新規助成対象活動概要

1. 新しい住まいと居場所（交流拠点）の創出

社会福祉法人安来市社会福祉協議会 （島根県安来市）

本会は地域共生型社会の実現を目指して、新たな多様な生活支援事業を開発し、実施している。さらに、昨年度実施した市街地における生活支援アンケート調査結果では、将来的な住まいに対する市民の関心（不安）がとても高い結果となり、身寄りのない高齢者をはじめ生活困窮者、ひとり親世帯、障がい者等にとって、安心して住み続けることのできる住居の確保は、地域での自立生活をする上で喫緊の課題となっている。

そこで、空き家等を活用した、地域開放の居場所スペースや緊急一時宿泊機能のある、低額かつ保証人不要で債務保証やエンディング・サポートサービス（終活サービス）などの生活支援を備えた、地域共生型の生活支援ハウス（仮称）を開発し、住人同士の支え合いや地域とのつながりのある新しい「住まい」（住まい方）について、行政、宅地建物取引業者、支援団体、福祉関係者等の協力により、その運営方法や支援方策等の課題・問題点を整理しながら、実験事業として具体化していきたい。

2. 桐ヶ丘地域のまちづくり再生

社会福祉法人ドリームヴィ（東京都北区）

単身暮らしの高齢者が多く、商店街、地域コミュニティの崩壊が顕著になった都営集合住宅の桐ヶ丘地区。この状況の中になんとか高齢者支援の一端を担えたらとの思いで当法人が障害者の人たちと共に街に入れてもらい平成27年「カフェレストラン長屋」を開店した。その後、高齢者地域包括支援センターを受託している社会福祉法人東京聖労院と北区社会福祉協議会との3法人の連携で地域の人たちの立ち寄り場「桐ヶ丘サロンあかしや」を開所した。

地域が必要としていることにしっかり目を向け、又イベント処として街の活動場の一つになってきた。サロンあかしやの運営に地域の人たちの参加を得て「今いちばん必要としていること」として上がってきた要望が、高齢者、障害者、子どもたちにも夕食提供できる夕食処を街の中につくりたいということである。「カフェレストラン長屋」、「サロンあかしや」そして「桐ヶ丘夕食処」が開設できれば、これらの店が基盤となって地域活動拠点となり桐ヶ丘商店街の活性化と高齢者、障害者、子どもたちをつなげる街づくりが実現できると考えている。

3. 高齢者の知恵が価値。コミュニティと仕事を 生む沖縄式パーラー

合同会社ソルファコミュニティ (沖縄県北中城村)

地域の高齢者に馴染みが深く、誰もが関われる農業の復興で地域おこしを行い健康と生きがいを創出していく。私達と地域住民が中心となって取り組む3本柱は、「仕事づくり」「コミュニティづくり」「就労希望者の募集」であり、これにより循環可能な継続する仕組みづくりにチャレンジしていく。

きたなかぐすくそん
北中城村における耕作放棄地の課題や住民レベルの課題を仕事にして、解決するのは地域住民である高齢者や障がい者、子育てお母さん達であり、自分たちの地域を自分達で支えて活躍できる環境を作っていく。そのためにも体力や時間の理由で働くことを諦めるのではなく、希望する社会との関わり方ができる柔軟な就労形態を提案しマッチングを行っていく。また、多世代が交流して役割を生み出す「沖縄式パーラー」を建設することで地域住民の集える場所をつくり、高齢者の知恵を価値とした講座などを定期開催し多世代交流のテーマとする。

そしてこの取り組みを継続的に発展、進化させるためにも きたなかぐすくそん 北中城村などの公的資源や自主財源確保に向けた農作物の生産量向上、6次化の取り組みも助成期間中に達成することを目標とする。